

＜状況を理解して適切な行動をとるのが難しい子＞

状況把握の弱さ、相手の気持ちを推察することの弱さ、言語表現の未熟さなどから、トラブルになりやすい子がいます。大抵の場合、教師や大人が内容を整理したり、気持ちを代弁してあげたりすると納得できます。

- 気持ちを上手に伝えられない子
- 相手の気持ちを理解しにくい子



いきちがいや、些細なことからトラブルに…



しかし時には、「話を聞いても前後関係がよくわからない」、「話しているうちに言っていることが食い違って来た(さっきと言っていることが違う)」などという場合もあるかもしれません。

子どもたちの中には言語面が弱く、言葉だけではうまく説明できない・理解できないという子もいます。そのようなときには視覚的な補助をすることが効果的です。

☆できごとの順を追って図で表したり、その場に行って再現させたりすることで、大人も子どもも事実関係を正確につかむことができます。

ぼくは悪くない
B君がいけないんだ

先生、A君が
つきとなり
つきとばした

お落ちついて
お互いの話を
整理してみよう

A君とB君のケンカ

1. A君が教室に入った
2. B君は立っていこうとした
3. A君はB君を押して、B君はたおれた
4. A君はB君に何も言わなかった

※B君は、A君が来たからイスから立ったのに、どうしてA君が押したのかわからないと言っています。

B: 「借りてたよ。」と言えばよかった。

A: 「勝手に使わないで。」と口で言えばよかった。

図を使いながら言動を振り返り、どこが通じていないのか、どこでどのように修正すればケンカにならなかったのかを考えます。修正すべきところがわかれば、素直に謝ることができます。

